

令和6年度 南部地区子ども支援net 事後アンケート

令和7年1月10日（金）
瀬戸内町きゅら島交流館

参加者： 47 名
回答者数： 34 / 42 名 （講師、事務局除く）
回答率： 81%

1.ミニ研修について「感情を調整する力の発達とその支援」

【研修全般について】

- ・感情の発達について段階に沿って具体的に詳しく説明があり良い学びになった。（2）
- ・感情をコントロールする力を身につけるには、周囲の支援者や大人の支えも必要だということが理解できた。
- ・感情のコントロールについて改めて学ぶことが出来た。（4）
- ・感情のコントロールについての話で、身近にいる他者（保護者）との関係性により感情のコントロールが育つという説明があり、普段から子どもたちと関わる中でも忘れないようにしたいと思った。
- ・「感情の揺れは自然なこと」など、成長するのに必要なことを再認識することができた。
- ・感情の表出や感情を振り返ることが出来るよう支援することが大切だと感じることができた。
- ・「感情」と日々向き合う中で、セルフコントロールの発達を手助けする支援は、日頃の療育の中では当たり前に行っていることだが、改めて再確認することができた。
- ・感情の理論の話を知ったことで、大人としての対応の振り返りの目安を得られたと思った。
- ・マイナス感情を調整する対処方法についてのお話がわかりやすかった。
- ・「感情」について、それぞれの年齢ごとに話してもらえたのでわかりやすかった。
- ・セルフコントロールの発達を手助けする際に「大人の気持ちを伝える」ことも大事であるという話を聞いて良かった。目からウロコだった。（2）
- ・子どもの感情調整に関する発達段階等を知る事が出来てよかった。
- ・「子どもの感情状態をラベリングして伝え返してあげる」という話を聞いたときに、周りの支援者が子どもの感情をしっかりと表現できる事の大切さに気づくことが出来て良かった。
- ・子どもが癇癢を起すとき、子ども自身が困ってSOSを出していることを理解して、低刺激の環境を整えることや、対応する大人も自分自身をほめることの大切さを学ぶことができた。
- ・子供に対して「感情を教える」「違う方法で感情を表現することを助ける」という話が特に印象に残った。
- ・幼児期より感情表出を大事にされることで、コントロールする力が身につくということを認識できた。
- ・他の人たちに助けてもらえることが人間の子育ての前提というお話が心に響いた。（妊婦教室などでも伝えていきたい）
- ・行動ばかりにとらわれず、行動が起こっている背景を考え、対処と一緒に考えられるようにしたいと思えた。
- ・わかりやすい話でとても良かった。
- ・感情もまだわからない面があるということに「なるほど」と思った。興味深い内容だったので、参考文献などの購入も検討したいと思う。
- ・採用試験以来、感情に関して学ぶことが出来た。再認識できてよかった。

【気づきや今後の支援について】

- ・こどもの感情に対し、どのように対応していけばよいか学ぶことが出来た。今後の保育に実践していきたい。
- ・子どもの感情に寄り添うことは大事だとわかっていながらもできていなかった面もあったため、今回具体的な支援の方法を聞く事が出来て良かった。
- ・「感情」についてわかりやすく教えていただけたので、今後の支援に役立てていきたい。
- ・大人としても、子どもたちのモデルになっていきたいと思えた。
- ・感情について改めて「待つ」ことの大切さを再確認することができた。待った後に「どうしたらよいのか」「どうしたかったのか」など丁寧に伝えていけるようにしていきたい。
- ・「メタ認知の発達」についてももっと知りたいと思った。
- ・「自己理解」が大切なことだと改めて再認識することができた。
- ・特性のある子の感情表出の関わり方などについて聞いてみたい。

- ・今回の研修を受けたことで、スタッフへの研修や困り感への相談について応えやすくなったと思う。
- ・「感情のコントロール」は大人でも難しい。セルフコントロールも難しいことだが、子どもたちは大人でも難しいと感じることに挑戦しているのだと思うと、自分自身も頑張りたいし、子どもたちをたくさん褒めたいと思った。
- ・子どもたちとしっかり向き合い、対話し、信頼してもらえる大人でありたいと感じた。
- ・感情が起こる仕組みなど面白く為になった。
- ・いつもわかりやすいお話で感謝している。
- ・再確認出来て良かったし、同じ地域の子どもを支える関係機関の方々と一緒に学ぶことが出来てよかった。
- ・もう少し時間を掛けた講義でもよかったと思う。

2.グループワークについて

- ・多職種の方々の様々な視点からの話を聞くことが出来て勉強になった。大変参考になった。新しい情報も聞く事ができた（12）
- ・多職種連携の大切さを実感することができた。
- ・多職種かつ地域も異なっていたため、幅広い意見が出され、非常に頼もしく思えた。
- ・様々な地域や職種の方々と交流することができてよかった。
- ・各機関のつながりや、情報交換がこれから必要だと感じる事が出来た。
- ・様々な職種の方と情報交換することで「顔の見えるネットワークづくり」ができる良い機会となり、ありがたかった。
- ・他機関との連携や情報共有に関する話し合いが出来た。
- ・地域に療育につながる医療機関や専門の人材が必要だということも理解できた。
- ・「事業所間のコミュニケーション」「保護者とのコミュニケーション」「学校などとのコミュニケーション」について情報共有することができた。
- ・色々な職種でグループ討議することが出来てとてもよかった。
- ・それぞれの想いを自由に話すことができ、新しい気づきにも繋がった。
- ・情報共有や連携が取れていると感じた。
- ・とても勉強になった。各地域の取り組みや他職種の話し等を参考に今度取り組んでいきたいと思えた。
- ・グループワークの中で「インクルーシブ」というワードがでており、今後、重要になっていくと感じた。まだまだ理解不足な所もあるので勉強していきたいと思えた。
- ・それぞれの業種の「当たり前」を共有していくことは大切だと思った。
- ・メンバーから、色々な職種の情報をわかりやすく話していただけたので、学びになった。
- ・どの職種の方も他との連携に苦慮している事がわかった。今後はより密な連携を意識していきたい。

【気づきや学びについて】

- ・「巡回相談」が特別支援学校から、学校や保育所などへ巡回していることを知ることが出来た。
- ・南部地区の現状を知ることが出来て良かった。
- ・瀬戸内町の「巡回型通級」についてお伝えすることができた。
- ・瀬戸内町の療育機関との連携について知る事が出来た（2）
- ・瀬戸内町（南部地区）の強みを共有することができた。ここ数年の取り組みで、支援者同士が顔見知りになっているという変化も感じる事ができた。おかげで活発な意見交換を行うことが出来たと思う。
- ・地域住民の理解が進められるような取り組みがあるのは良いと思う。
- ・学校の現状などなかなか分からないことが多いのでとても勉強になった。
- ・保護者とのコミュニケーションや教員の異動で学校の体制が変わった際の対応等色々な情報を共有することができた。

【その他/GW全体を通して感じたこと】

- ・他の参加者から、たくさんのアドバイスをいただくことが出来た。
- ・いろいろな立場からの意見を率直に聞くことが出来てよかった。
- ・毎回グループの方々に助けられ、進行役が出来ていてありがたいと思う。

- ・ざっくばらんに話をする事ができてよかった。皆同じことを思っているのだとわかり、ほっとした。
- ・担当者会をする時に、参加が難しいと思っている機関の方もダメもとでも誘ってみると意外と参加してくれるかもしれないと前向きになることができた。
- ・保健師と保育所が繋がっているので、子どものことで繋がりがやすく、療育機関を医的ケアの必要な子も受け付けてくれているのが地域として良いと思う。
- ・早期療育が進んでいたり、関係機関（療育、学校、保健師等）で情報交換しているなど、瀬戸内町の変化を感じることができてとても感動した。
- ・保健師が中心になって地域の中で動いていることに感激した。

3.運営全般について（案内方法、開催日時、進行 他）

- ・進行もスムーズで良かった。わかりやすかったし、参加しやすかった（8）
- ・準備等、大変感謝している。
- ・とても勉強になったので、このような会の回数を増やして欲しいと思った。
- ・多くの職員が出席できる日程（土曜日など）で開催されると良いと思う。
- ・もう少しグループワークがしたかった。
- ・会場が寒かった。

4.「困り感のある子どもへの支援」に関する課題や知りたい情報について

①.あなたが感じている、地域の課題等がありますか。

- ・療育機関との物理的な距離がある。
- ・地域での療育に対する理解がもっと広がり、深まってほしい。（2）
- ・特別支援学校について位置的な問題があり、通学の難しさを感じている。
- ・学校との連携について（3）
- ・情報共有のあり方や連携の方法を考えていきたい。（2）
- ・専門性のある人材の不足（2）
- ・困っている子どもの保護者への伝え方（なかなか分かってもらえない事がある）
- ・多職種連携の機会の不足
- ・不登校支援について、学校以外の行き場がない（フリースクールなど）
（ケース会議等で情報共有できているのは地域の強みだとは思う）
- ・待機の間にくつも療育に通う子もいる。
- ・交流学級での困り感がある（支援員不足などにより安全確保が難しい）
- ・地域の資源や人材不足はずっと言われているため仕方がないが、この限られた資源の中で、最大限何ができるのかを前向きに考えることが必要だと思う。
- ・同じような職種としての学びの場があるとよい。
- ・地域が広く、お互いに思いがあってもそれぞれになってしまうことも多い。特に中部地区での多職種連携や関係づくりについて大切にしなければならないと改めて思った。
- ・保護者等に批判の多いグループがあり、疑問に思うことがある。

②.今後開催してほしい、研修や知りたい情報などがありますか。

- ・中学卒業以降の相談できる場に関する情報提供があればよい。
- ・具体的な支援に関する研修
- ・地域の実情に関する研修
- ・このような会があると助かる。
- ・いろいろな関係機関の一覧が欲しい。「言葉が気になる」「療育と家庭をつなげたい」など連携を取るうえで勉強になると思う。
- ・特別支援学校の巡回相談の流れについて詳しく知りたい。

3.その他（ご意見、ご感想など自由にお書きください。）

- ・巡回相談について知る事ができたり、相談支援専門員の悩みなども聞くことが出来て、ありがたかった。
- ・とても充実した会で勉強になった。有意義な時間を過ごすことができ、感謝している。（3）
- ・今後も顔の見える研修を企画して行ってほしい。
- ・瀬戸内町の変化が感じられてうれしかった。感謝している。
- ・いつも準備から当日の運営まで感謝している。参加する度に勉強になっている。

【あなたのことをお聞かせください】

○職種

- | | | | |
|---|-----|---|----|
| <input type="checkbox"/> 学校等（小、中、高、特） | 5名 | <input type="checkbox"/> 保育機関（幼、保、認定こども園） | 2名 |
| <input type="checkbox"/> 療育機関（児発、放デイ・児発C） | 11名 | <input type="checkbox"/> 医療機関 | 3名 |
| <input type="checkbox"/> 相談支援事業所 | 5名 | <input type="checkbox"/> 行政機関（県） | 1名 |
| <input type="checkbox"/> 行政機関（市町村） | 6名 | <input type="checkbox"/> 未回答 | 1名 |

○職名

事業所他【児発管（3）、管/児兼務（1）、保育士（2）、相談支援専門員（5）、理学療法士（1）】
学校他【教諭（4）、特別支援教育支援員（1）】 幼稚園/保育所【保育士（2）】
医療関係【訪問看護師（1）】 市町村行政【保健師（4）、指導主事（1）】
県行政【保健技師（1）】 未回答（8）

経験年数

- | | | | | | |
|--------------------------------|-----|-------------------------------|----|-------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> 1～3年 | 13名 | <input type="checkbox"/> 4～6年 | 4名 | <input type="checkbox"/> 7～9年 | 6名 |
| <input type="checkbox"/> 10年以上 | 10名 | <input type="checkbox"/> 未回答 | 1名 | | |